

全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト 応募の手引き

地球温暖化や資源・エネルギー問題など様々な課題が増大する中、子ども達一人ひとりが環境問題について学習し、積極的にリサイクル活動に取り組むことが求められます。その第一歩として、身近にある「紙」のリサイクルから資源の循環を考えてみませんか。使い終わった紙がどのようにリサイクルされているのか、リサイクルの仕組みを知ることによって環境問題への理解が深まると思います。

この応募の手引きを通して、“紙リサイクル”の理解を深め、作品づくりへのポイントをおさえながら、環境学習の1つとして役立てて頂ければ幸いです。



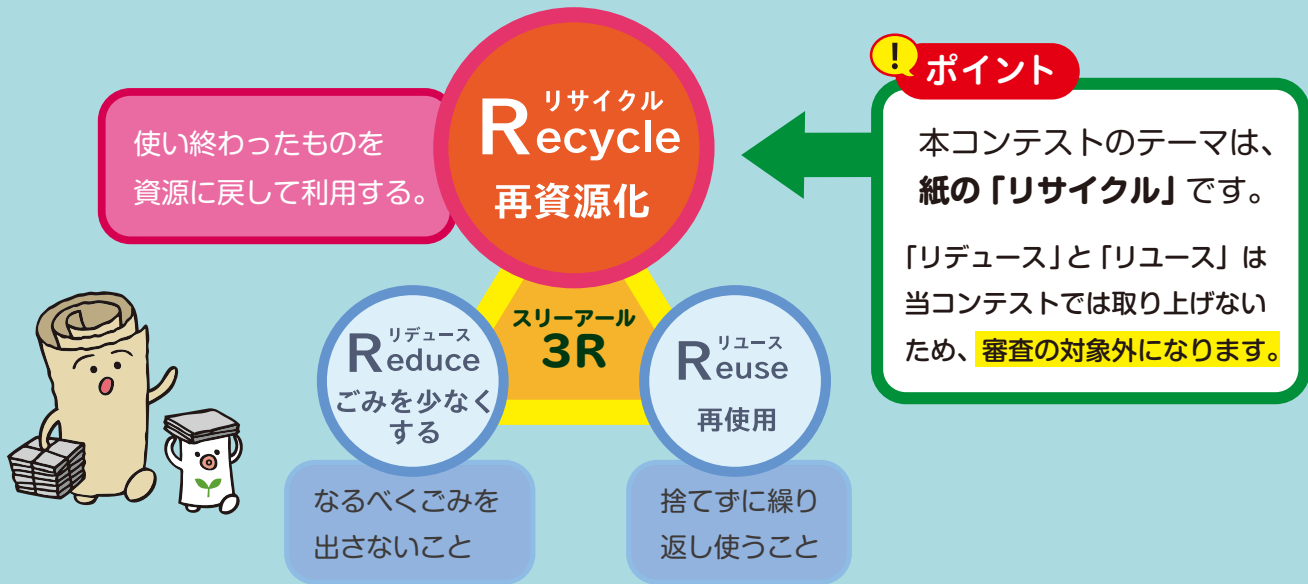
目次

紙リサイクルについて	
リサイクルとは？紙リサイクルの仕組み	2
「古紙」と「生まれ変わる紙製品」の種類、マークの種類	3
「紙リサイクル」と「持続可能な社会」のつながり	4
作品づくりの注意点	
書いて良いこと、いけないこと	5・6
良い作例・良くない作例	
受賞作品と評価ポイント 作文	7～11
受賞作品と評価ポイント ポスター	12～16
作文・ポスター【良くない作例】	17・18
作文・ポスターをより良く仕上げるために	19
(参考資料)	
審査基準、応募前のチェックリスト	20

*項目をクリックすると、各ページへアクセスできます。

リサイクルとは何ですか？

「リサイクル」とは、限りある地球の資源を有効に繰り返し使う社会（＝循環型社会）をつくらうとする活動の1つです。



メモ

「リサイクル」の他に、「リデュース」、「リユース」といった、ごみを削減するスリーアール方法もあり、この「R」で始まる3つの活動を合わせて「3R」といいます。

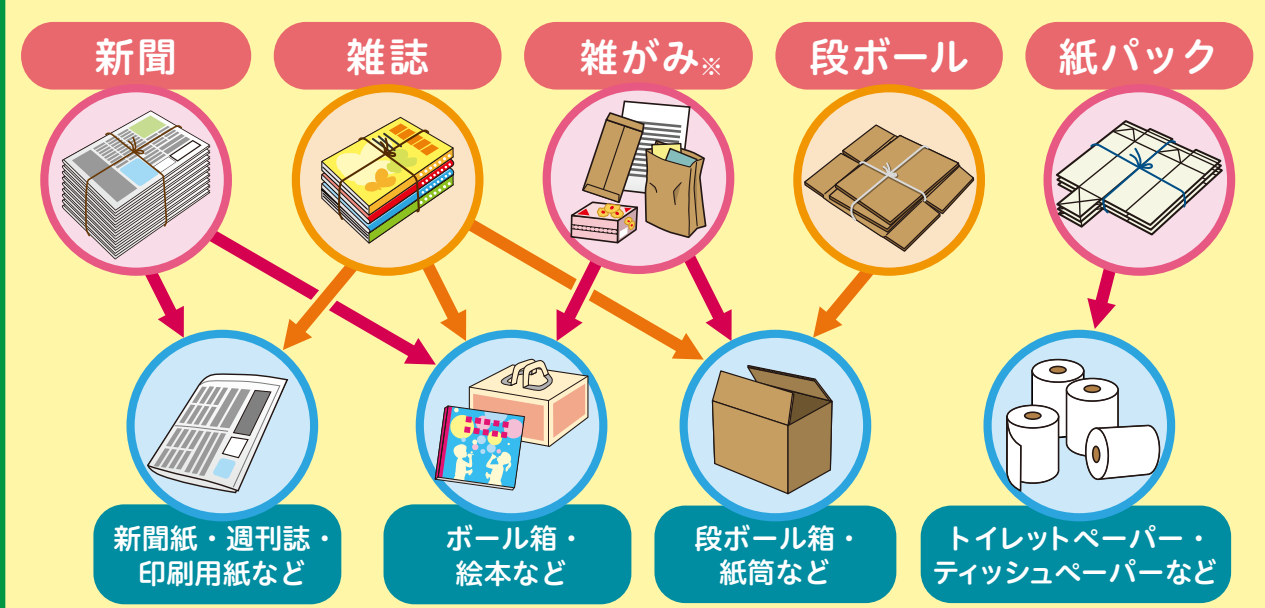
では、紙リサイクルとは？

“紙リサイクル”とは、読み終わった新聞や雑誌、使い終わった段ボール、紙パックなどを回収し、資源に戻して新たな紙の原料に利用することです。



「古紙」と「生まれ変わる紙製品」の種類を理解しよう

「古紙（リサイクルできる紙）」の種類と紙リサイクルで「生まれ変わる紙製品」



※雑がみ…チラシ、コピー紙、包装紙、紙袋、紙箱、封筒
当センターでは「雑紙」ではなく、「雑がみ」と表現しています。

紙の種類ごとに
しっかり分別することが
とても大切だよ。

リサイクルできない紙の一例

洗剤の箱やにおいのついた紙、
フィルム付き封筒、レシート、
紙コップ、金銀の光る紙、写真…など

自分たちが住んでいる
地域の古紙の分別区分を
調べてみよう！

ポスター作品にマークを描く場合は、マークの種類を知ろう

ポスター作品に「紙リサイクル」に関するマークを描く場合は、
①～⑤のマークを描いてください。

描いていいマーク

“紙リサイクル”に関する
マーク(推奨)

① グリーンマーク

古紙を原料に利用した
製品についています。

グリーンマーク

② 段ボールのリサイクルマーク

リサイクルできる
段ボールについて
います。

ダンボール

③ 紙パック識別マーク

アルミのない
紙パックに
ついてます。

④ 牛乳パック再利用マーク

使用済みの牛乳パック
を原料として使用した
商品についています。

牛乳パック再利用

⑤ 再生紙使用マーク

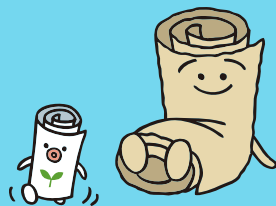
古紙を表示の割合
使った再生紙につ
いています。

古紙パルプ配合率80%再生紙を使用

「紙リサイクル」と「持続可能な社会」のつながり

紙リサイクルは資源の有効活用や森林資源の適切な利用につながっており、持続可能な社会に大きく貢献する行動です。

古紙の分別や
リサイクルされた
製品を使う事など



皆さんの身のまわりの
小さな活動が
持続可能な社会に
つながっているよ！



持続可能な社会について

持続可能な社会は健全で恵み豊かな環境を通じ、将来にわたって一人ひとりが幸せを実感できる社会のことです。

この社会を実現するために「SDGs」を掲げて、一人ひとり実践することが大切です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs (エスディーゼズ) とは

サステナブル Sustainable ▶ 持続可能な

デベロップメント Development ▶ 開発

ゴールズ Goals ▶ 目標

「紙リサイクルと持続可能な社会づくり」をテーマに選んだときに、気をつけてほしいこと



紙リサイクルを行うことは資源の有効活用や森林資源の適切な利用に繋がっています。古紙の分別やリサイクルされた製品を使用するといった身近な行動が、持続可能な社会に貢献していることを意識して作品を制作してください。

本コンテストは「紙リサイクル」をテーマとしたコンテストであり、「持続可能な社会」や「SDGs」について調べたことだけをまとめた作品は審査の対象外となる可能性があります。具体的な紙リサイクル活動や体験に基づいた作品を制作してください。

ポスターを描く時に、SDGsのロゴやマークを使う場合は主題にならないようにしましょう。



注目！

SDGsを主題とした作品にならないように気をつけましょう

作品づくりの注意点

“紙リサイクル”の仕組みや、リサイクルできる紙の種類などをしっかり理解して作品づくりに取りかかりましょう。テーマがずれてしまっているため、せっかくの応募作品が審査の対象外となってしまうことがあります。ここからは、コンテストの作品づくりに向けた注意点をまとめています。紙のこと、リサイクルのことを正しく理解して取り組みましょう！



紙リサイクルのことをしっかり理解しよう

良い例

- ・私の家では、使い終わった紙を集める箱を置いて古紙回収に出している
- ・リサイクルに出した紙はどうなるか調べた



紙リサイクルについて取り上げているので OK

悪い例

- ・紙箱を筆箱にして使っている
- ・牛乳パックを洗ってまな板にしている
- ・新聞紙を雑巾代わりに使う



これらはリユースになってしまいます

「リサイクル」は「捨てること」ではないよ！

書き方や表現によって審査の対象外となってしまう場合があります。下書きの時に見直しましょう。

リサイクルされる表現

- 古紙 ・ 資源 ・ 収集所に出す

リサイクルされない表現

- ✕ 紙ごみ ・ 資源ごみ ・ ごみ
- ・ ごみに出す ・ 捨てる

「かみ」と「ごみ」を混同しないように気をつけよう



注目！

リサイクルできる紙は「資源」です。「ごみ」ではないため、「ごみを捨てる」、「ごみ捨て場に出す」など、リサイクルされない表現をすると、審査の対象外となる場合があります。リサイクルする様子を表現するときは、上にあるキーワードの使い方に気をつけましょう。

※自治体によっては「紙ごみ」、「資源ごみ」と表現している場合がありますが、当センターでは「ごみ」といった表現は使っていません。よって、本コンテストでも表現しないようにしてください。

紙の種類に気をつけて！

紙の種類によって「リサイクルできない紙」があります。作品の中に取り上げる時にも、リサイクル「できる紙」と「できない紙」を混同しないように気をつけましょう。

リサイクルできる紙

- 新聞 ・ 雑誌
- ・ 雑がみ ・ 段ボール
- ・ 紙パック

リサイクルできない紙

- ✕ 洗剤の箱やにおいのついた紙
- ・ フィルム付き封筒 ・ レシート ・ 紙コップ
- ・ 金銀の光る紙 ・ 写真 …など

また、「古紙」の種類と、リサイクルをして「生まれ変わる紙製品」の種類も間違えないようにしっかり見直しましょう。

良い例

- 古紙回収に出した段ボールが、また段ボールに生まれ変わった

悪い例

- ✕ 新聞紙はトイレトペーパーになる

描いてはいけないマーク

“紙リサイクル”とは異なるマークは描かないでください。



描いていいマーク



紙製容器包装識別マークについて



このマークは、商品を入れる容器や包装が主に紙製であることを示したマークです。本コンテストの作品には使用しないでください。

「森を守ること」はリサイクルではありません

紙リサイクルの目的は、古紙を回収して資源に戻し、新たな紙の原料に利用することです。応募作品の中に「紙リサイクルをすることで森（木）を守る、森林破壊を防ぐ」といった内容の作品が見られます。

本コンテストは「森林保護について」ではなく、「紙リサイクル」をテーマとしています。しっかり再認識をして、目的がずれてしまわないように気をつけてください。



紙の無駄使いは森林破壊になるので、紙リサイクルをしよう

紙リサイクルの目的は「紙をごみにすることを防ぐ」ことであり、「森林破壊を防ぐ」ことではありません。

紙を作るために、木々を伐採することは森林破壊に繋がる

紙の原料として、一部利用している木材（パルプ）は端材、もしくは廃材を使用しています。紙を作るために森林を不必要に伐採しているわけではありません。

森を守るとは、地球温暖化防止となるので紙リサイクルをしよう

「紙リサイクルは森を守ること」として関連づけて書かれていると審査の対象外となる場合があります。

「自分が考えたこと」を作品にしよう

「紙リサイクル」「紙のリサイクル」等と検索して調べた内容、インターネットに出ている内容（説明や事例）をそのまま書き写したような内容のものは、審査の対象外になります。必ず、児童・生徒自身が考えた作品を応募してください。

また、共同作品や合作も審査の対象外になります。

自分自身が「紙リサイクル」について考えたこと、思いついたことを作品にしましょう。



テーマがなかなか決まらない場合は

以下のような、紙リサイクルの課題の解決策について提案する内容もテーマとして考えられます。

リサイクルできる紙がごみとして捨てられないようにするためには？

リサイクルできない紙が古紙に混ざらないようにするためには？

木材（パルプ）よりも古紙を原料にした紙製品を使ってもらうためには？

古紙回収活動（集団回収活動）を継続していくためには？

〇〇するために、
〇〇したらどうかな？

思いついた
アイデアを
書いてみよう！



良い作例 ～作文編～

それでは、ここから実際に受賞した作品を見ながら、評価が高かったポイントをおさえていきましょう。



気になったことを調べ、段ボールの役割やリサイクルの取り組みを正しく理解しています。日本の回収率の高さを「紙リサイクル優等生」と表現し、作文のテーマを確立しています。

今起きている出来事から書き始めていることで、読む人の気持ちを引きつけています。

文部科学大臣賞（作文部門最優秀賞）2022年度受賞作品

みんなで目指そう！紙リサイクル優等生！

小学三年生

コロナかももう三年。インターネットでの買い物が多くなり、家に段ボールがふえた。それをまとめてリサイクルに出すのは、私の役わり。段ボールにふれる機会もふえた。

ある日、ほとんどの箱に見たことのない同じマークがついていることに気がついた。広げた箱のまわりを矢印が一周している。調べてみると、これは段ボールのリサイクルマーク。なんと世界共通のマークだ。あらためて見ると、たしかに海外から届いた段ボールにも同じシンボルマークがついていた。段ボールは段ボールに生まれ変わる。95%以上が回収され、原料の90%以上は古紙だ。かぎられた資源をむだにしない、まさにリサイクルの優等生。このシンボルマークは世界が一丸となってリサイクルに取り組んでいる証なのだ。リサイクルできる紙は段ボールだけではない。新聞紙、雑誌、雑がみ、紙パックなど、これらは全て「古紙」と呼ばれる資源だ。古紙回収率を調べると、世界の平均が60%ほどなのに対し、日本は80%以上とひ常に高い。また古紙利用率も世界平均を上回っている。日本はまさに紙リサイクル優等生だったのだ。

この紙リサイクル優等国である日本の中で、さらに私にできることは何だろう。去年、自分のまわりの人50人い上からアンケートをとった。その結果、紙リサ

イクルの知しきはあっても実際の行動にうつせていない人が多かった。リサイクルの仕組みや知しきがあるのに、正しく使わなければもったいない。それならばリサイクルを実際にそして簡単にできるような仕組みがあるとよい。ではわが家ではどうだろう。紙リサイクルのために専用の置き場があるのは、新聞紙や雑誌、紙パック、段ボールだ。なんと雑がみだけ専用の置き場がない。そこで「雑がみ入れ」を作った。大きめの紙ぶくろを用意。貴重な資源をうっかりごみにしてしまわないよう、ぶくろはごみ箱の近くに置く。すると一週間もたないうちに雑がみ入れはいっぱい。そういうえば、雑がみの6わりがもえるごみとして出されていると聞いたことがある。若い人ほどごみとしてすてているとも。母に聞くと、たしかに雑がみ入れを作ってからわが家の家庭ごみの量もへったらしい。簡単な工夫でこんなにもかわるのだ。今までいかに多くの資源をごみにしてしまっていたのかと反省した。考えてみると、コピー用紙やおかしの箱など私たち子どもは雑がみと接することが多い。私たち若い世代が雑がみを資源ととらえることが、より紙リサイクルをすすめるカギなのかもしれない。学校でも雑がみ入れを作ったらどうか。きつとたくさん集まるはずだ。

一人一人が紙リサイクルを理解し、協力して、行動しよう。この紙リサイクル優等国の日本でさらに力を合わせよう！みんなで目指そう！紙リサイクル優等生！

自分が感じたこと、調べたこと、実践したことを踏まえて、テーマにしている「紙リサイクル優等生」でしめくり、伝えたいことがわかりやすくまとまった作品になっています。

自分ができるとは何か、まわりの人の行動を調べ、どのような工夫で、もっと紙リサイクルに繋がるかアイデアと実践例を書いていることと、これからのについての考えもまとめられ、高く評価されました。

良い作例 ～作文編～

より多くの人に参加してもらうためのアイデアを考え、実践した様子をしっかりとまとめ、協力している人たちも意識し始めてきている様子が伺えます。

今までに実践してきた活動内容ときっかけ、活動の中で感じたことがわかりやすく書かれています。



文部科学大臣賞（作文部門最優秀賞）2021年度受賞作品

リサイクルで仲間の輪

中学二年生

「リサイクルのために四月から回収した紙が六百四十キロになったよ。」

職場から帰ってきた父はそう言って、ダンボール箱を姉と私に見せた。六百四十キロの実感がわかない私達に父は「この箱にコピー用紙がいっぱい入って二十キロだから、六百四十キロはこの箱三十二箱だよ。」と告げた。私はすごい量だなと驚くと共にここまでの活動を思い出していた。

去年、私と姉は市の広報誌でリサイクルの取り組みについて調べ、自分達にできる方法を考え、実践してみた。「リサイクルできる紙はお宝」を合い言葉に、学校から配布されたプリントは個人情報を切り取り、菓子箱はきれいにたたんで仕分けし、たまるたびに収集所に運んだ。家庭での燃えるごみが減ったと母は喜び、私もずっしりと重い「雑紙」を運ぶたびに「地球に優しい活動」を実感できうれしくなった。

この活動をもっと多くの人に知ってもらい、一緒に活動したいと姉が父の職場で行うことを提案した。父は職場の上司と相談し、紙資源の回収を始めた。「どうすれば多くの人に参加してもらえるのか」と考え、私達はポスターを作成し、父の職場に貼ってもらった。「菓子箱をリサイクル、十歩動けばごみから資源へ」このポスターを見て、ゴミ箱に入れていた菓子箱をリサイクル

ボックスに運んでくれる人や家庭から様々な「雑紙」を持ってくる人も増えたそうだ。また、父に「この紙もリサイクルでいいですか。」と、聞く人もいて、一緒に活動してくれる人が増えていくことが実感でき、「リサイクルの輪」がどんどん広がるのがとてもうれしく、自分への励みとなった。

ある日、父がこんな話をした。いつも家庭から「雑紙」を持ってくる女性が「私が持ってきた紙を見られると、私のプライバシーが丸見えですよね。」と話していたと…。私は、「あっ」と思った。私達が用意した雑紙の回収ボックスは入れやすく、取り出しやすいようにとふたのない大きな袋だったのだ。持ってきてくれる人の気持ちに寄りそった方法ではなかったと反省し、姉と相談してふたがあり、中身が見えないようにリサイクルボックスを工夫してみた。

これらの経験から、多くの人と一緒に活動するためには相手の立場に立って気持ちを考えたり、自分から積極的に動いて声掛けすることが大切だと思った。今、姉と一緒に紙資源のリサイクルをする必要性や六百四十キロもの資源が集まったことと、そのことに感謝する気持ちをまとめたパンフレットを作成している。このパンフレットを多くの人が見て、リサイクルの必要性や活動の充実感や楽しさを知ってもらいたいと思う。そして、一緒に活動する仲間の輪をもっと広げていきたいらと考えている。

終盤では、活動を通して感じたこと、実践した結果がまとめられています。パンフレットを作成して、今後も活動が続く事、多くの人に参加してくれることを願っている様子が高く評価されました。

活動を続けていく中で、問題点が生まれたこと、雑がみを出す人の気持ちを考えて改善したことをまとめられています。

良い作例 ～作文編～

リサイクルできない紙、できる紙の種類が正しく書かれています。

調べたことで、自分が驚いたことや感じたことを書き出し、古紙を「宝物」と表現したことで、主題が明確になっています。

紙リサイクルをするきっかけが明記されていることで、どのようにしたらいいか、しっかり考える導線に繋がっています。

古紙は宝物

小学四年生

私の家では、リサイクルを大切にしています。特に、紙リサイクルに力を入れています。そのきっかけになった出来事がありました。

学校から帰ると、道路わきに、朝出しておいたピザの空き箱がそのまま置いてありました。「出しておいたのに、回収されなかったのかな。」と思い近づいてみると、一枚の紙が貼られていました。そこに書かれていたのは「汚れているので、回収できません。」というメッセージでした。

そこで、私はお母さんと一緒に「紙リサイクル」について調べました。市から配られる古紙の出し方の冊子を見て、汚れているものは紙リサイクルできないことがわかりました。読み進めていて驚いたことは、紙リサイクルできる古紙の種類がたくさんあったことでした。それまでは、段ボール、雑誌などが中心でした。でも、チラシ、封筒、おかし空き箱など細かい物も雑がみとして紙リサイクルできるのです。今まで紙リサイクルしなかった古紙がどれだけあったらうともったいない気持ちになりました。宝物をむだにしていたのです。

いろいろな古紙がリサイクルできるということは

わかったのですが「分別」をしないと意味がありません。それぞれ生まれ変わる紙製品の形が違っていているので、分別をしないと工場で働いている人たちに負担がかかってしまいます。そこで、資源として出す前に、家族一人一人が自分で分別できなくてはいけないと考えました。どうすれば分かりやすく分別できるかなやんでいた時にヒントになったのがおばあちゃんの家で工夫です。おばあちゃんは、段ボール、雑誌、雑がみ、新聞紙、牛乳パックの入れる箱を分けてラベルをはっていました。誰が見てもどこに置けばよいか一目でわかります。その工夫を取り入れて、パントリーにそれぞれの置き場を作りました。それからは、家族全員が小さな古紙でも分別できるようにしました。今では、回収日に古紙がなくなると、スッキリして嬉しい気持ちになります。

古紙の出し方を失敗して、紙リサイクルについて調べたことが、家族の古紙に対する気持ちを変えました。知らなければ行動にうつせなかったと思います。古紙という宝物をむだにせずに、新しく生まれ変わらせるのは、私たちにかかっています。私は、家で取り組んでいる古紙の分別の工夫をいろいろな人たちに伝えていきたいです。

自分の失敗(きっかけ)を通して、きちんと調べて実践できたことを振り返り、主題の「宝物」に対する考え、メッセージが伝わってくる締めくくりになっています。

「わかりやすく分別する」にはどうしたらいいか、身近なところでの実践に気づき、工夫したことによって問題が解決したことが、しっかりまとめられています。



良い作例 ～作文編～

改めて学習してリサイクルへの思いが変わったこと、委員会の活動を通して実感したこと、次の年もリサイクル委員会になったことで、さらに追及する気持ちがしっかりと現れています。

紙リサイクルを知ったきっかけから興味を持ち、学んだことを自分なりに理解している様子がわかりやすく書かれています。



作文小学生部門 金賞（優秀賞）2022年度作品

紙リサイクルは私の夢

小学六年生

私は今、学校でリサイクル委員長をやっている。三年生の時、社会の授業で初めて「リサイクル」というものを知った。それまで聞いたこともない言葉だったので、少し興味があった。学習が進んで、リサイクルにはどんな目的があり、そのためにどんなことをしているのかなんとか分かった。

そして四年生のとき、リサイクル委員会に入り、もう一度リサイクルについて教えてもらった。三年生の時より理解ができて、自分のリサイクルへの思いも変わった。「リサイクルっていう活動があって、ゴミを減らすために協力した方が良いんだな。」くらいにしか三年の時は思ってたけど、「自分も協力しよう。」と思うようになった。

委員会では、牛乳パックを回収して資源ゴミとしてリサイクルしてもらう、という活動をしていて、リサイクル活動に協力しているという実感が湧いた。それによって日常生活でもリサイクルの意識が高まり、資源ゴミを分別したり、できるだけきれいにリサイクルしやすいようにしたりするようになった。

そして五年生になり、おどろくことにまたリサイクル委員会に入ることになった。ジャンケンで負けたのだ。でも、二年目となると少しずつ愛着が湧いてきて、しかも年度SDGsに興味を持ち始めた時だったので、リサイクルについてもっとくわしく知って、新しい活動を試してみたいと

考えていた。

そして今に至る。三年目のリサイクル委員会だが、やりたい事にチャレンジできて退屈しない。牛乳パックの回収は続けている。紙ゴミの中でも牛乳パックの量は多いと思うし、それを全部可燃ゴミとして処分した場合、埋め立て地に灰が積もり続けて、埋められる土地がなくなってしまうかもしれない。空気が汚れて環境汚染につながってしまうかもしれない。だから、牛乳パックを集めている。少しでも紙ゴミの削減にこうやって来たい。いれればうれしい。とはいえ、牛乳パックを持って来てくれる人はとても少ない。リサイクルへの意識がうすいからだ。前にニュースでリサイクルの取り組みについて紹介していて、「一人一人が意識して協力することで、リサイクルできるゴミの量が更に増えるんですね。」

と言っていた。私も同感だ。一部の人だけじゃなく、周りの人を引き込む力が必要なのだ。牛乳パックを持って来てくれる人から意識を広げていくために、今後も回収を続けてほしいと思っている。

前文に書いた「周りを引き込む」ためには、楽でワクワクする活動が必要だ。例えば、集めた紙ゴミで一枚の絵を作ったり、全国規模でダンボールを集めて立体作品を作ったりして、美術館にかざる。また、紙から発生した静電気で発電するという挑戦も面白い。とても難しいことだし、今は何かを変える力はないけど、いつか実現できたら良いなと思う。

周りの人を引き込むために、楽しい活動をいくつか挙げて挑戦したい、という、読む人もワクワクするようなアイデアで締めくくられており、明るく夢のある作品だと評価されました。

今までの意識・活動し続けている経験をふまえて、牛乳パックをリサイクルすることの重要性、意識をすることの大切さがよく伝わってきます。

良い作例 ～作文編～

ある出来事が、心に残ってしまったこと、「リサイクルをすること」を考えさせられるきっかけになった出来事として、しっかりと書かれています。

印象的な書き出しと登場人物が、作品の中で大きな要素となり、読む人を引き込んでいます。



作文中学生部門 金賞（優秀賞）2022年度作品

自分から“やる”リサイクル

中学三年生

私の家には、もったいないおばけが住んでいます。普段は、温厚で世話やきの母ですが、例えば私が学校でもらったおたよりを丸めて燃えるごみに捨てようものなら、どこからともなくやって来て、「もったいない。リサイクルしたらまた使えるのに、もったいない。」とぶつぶつ言いながら、その紙を家のリサイクルBOXへもっていくのです。正直、「プリント一枚でおおげさな。」と思っていました。しかし、そんなもったいないおばけが居たからこそ、私は自然にリサイクルを心がけるようになったのです。

ある日の早朝。私は母に頼まれて、燃えるごみを出しに行きました。その時、同じくごみ出しに来たであろう女性と出会いました。その女性は、今日は古紙回収の日ではないのに、たくさん古紙を持っていました。私は驚いてその女性のことを、じっと見ましたが女性は私に目もくれず、そそくさと去って行ってしまいました。燃えるごみの場所に残された古紙を見ると「あの時、声をかけられていれば。」と胸がちくりと痛みました。

あの時、私が声をかけられなかったのは、私がまだリサイクルをやらされていたからだと後から気付きました。私は、これまで一度も、なぜリサイクルをするのかということ考えたこともなかったのです。

私はリサイクルについてもっと知りたい、と思い母に話

を聞いてみることにしました。すると母は、リサイクルをすることで多くの資源が無駄にならずに済むこと、二酸化炭素の排出を減らすことで、地球温暖化の解決につながるなど、たくさんのお話を教えてくれました。「リサイクルをするっていうのは、地球を守ることと同じだよ。」

私は、これまでリサイクルしてきた古紙たちの重みを感じ、少し誇らしく、何か大きなことを成しとげたような気分になりました。

あれから数日後。私がまた、燃えるごみを出しに行く時、その女性が以前と同じように古紙を捨てていました。前までの私なら、ここで何も言うことはできませんでしたが、今、私は違います。リサイクルすることの大切さを知り、やらされているのではなく、自分から“やる”リサイクルができるようになりました。私は勇気を振り絞り、女性に古紙はリサイクルできることを伝えました。すると、女性はちゃんと納得して古紙を持ち帰ってくれました。「ゴミだと思ってたこの古紙も、ちゃんと生まれ変われるんだよね。教えてくれて、ありがとう。」

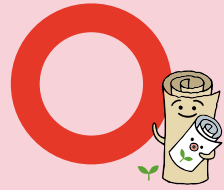
当事者意識をもった、自分から“やる”リサイクルは、大切な地球を守ります。“やらされている”リサイクルは長続きしません。だからこそ、私は自分から“やる”リサイクルの輪を広げるために、色々な人にリサイクルの大切さを伝えたいと思います。また、自分もリサイクルを続けていこうと思います。

リサイクルは、自分自身が意識して行うことが大切である、と、経験を通して成長している様子が非常にわかりやすくまとめられています。

ある出来事をきっかけにリサイクルの大切さを知りたい、と意識し、学び、自信を持ったことで、勇気を出して行動したことが高く評価されました。

良い作例 ～ポスター編～

ポスター作品も、ポイントをおさえながら自分が表現したいことをイメージして描きだしてみましょ。



優秀な作品として選ばれる作品には、下記のポイントが大きく関わってきます。

テーマに沿った
内容であること。

人の心を強く引き付ける
メッセージ性があること。

描いた本人の意図が
表現されていること。

キャッチフレーズが
しっかりとしていて
わかりやすいこと。

キャッチフレーズについて

なるべくレタリング（美しく読みやすい字にしたり、文字をデザインすること）をして描くと、よりしっかりとした印象になります。

(例) 糸紙 → 紙

文部科学大臣賞（ポスター部門最優秀賞）作品



古紙回収の様子がていねいに描かれていること、テーマの核心となる「地域の活動が古紙を守ることに繋がっている」を表現していることが高く評価されました。

2022年度受賞作品
「地域みんなでき古紙回収！」
中学1年生

良い作例 ～ポスター編～

文部科学大臣賞（ポスター部門最優秀賞）作品



2021年度受賞作品
「資源も命のように大切に」
小学5年生

「資源」も「赤ちゃん」のように大切に
する思いが表現され、とても
温かみのある心優しい作品である、
と高く評価されました。



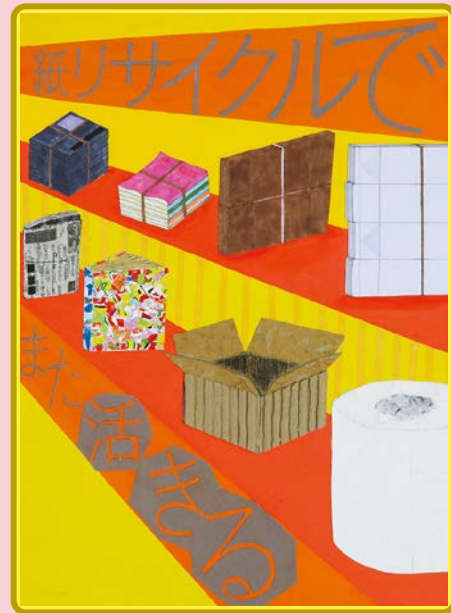
キャッチフレーズが明確でわかりやすく、
古紙が新しい紙製品に生まれ変わる
様子が楽しく元気に伝わってくる、
インパクトのある作品です。

2020年度受賞作品
「変～身！！」
中学1年生

良い作例 ～ポスター編～



2022年度小学生部門 金賞（優秀賞）作品
「聞いて！ぼくたちの声！」
小学4年生



2022年度中学生部門 金賞（優秀賞）作品
「紙リサイクルでまた活きる」
中学3年生



2021年度小学生部門 金賞（優秀賞）作品
「待ってました」
小学3年生



2021年度中学生部門 金賞（優秀賞）作品
「ぜひお古紙ください。持続可能な未来へ…」
中学1年生

また、作品の裏（応募票の記入欄）には作品の意図を書きましょう。
文字数の制限はありません。経緯や意図がわかるように説明してると高評価につながります。

- 〇〇だったらいいな。
- 〇〇の思いでこのポスターを描きました。
- みんなで〇〇したらいい、を表現しました。
- 〇〇している様子を絵で表現しました。…など

良い作例 ～ポスター編～

構図は、タテ・ヨコ問いません。
画用紙いっぱい描くようにしましょう。

分別できるもの、できないもの、どの紙がどのような紙製品に生まれ変わるかをきちんと理解し、正しく「紙リサイクル」が描かれているかどうか大きなポイントになります。
下書きのときに、紙の種類を間違えていないか、しっかり見直しておきましょう。



2022年度 特別金賞（優秀賞）作品
「また会おう」
小学2年生



2022年度小学生部門 銅賞作品
「大切な資源を紙リサイクルで新しく」
小学4年生



2021年度中学生部門 銀賞作品
「未来へつなぐ紙リサイクル」
中学3年生



2021年度小学生部門 銀賞作品
「リサイクルで またあおう！」
小学1年生



2021年度小学生部門 銅賞作品
「つなげよう！広げよう！紙リサイクル」
小学5年生




2022年度中学生部門 銅賞作品
「リサイクル家系図」
中学2年生

良い作例 ～ポスター編～

画用紙規定内のサイズ（四つ切以内）であれば素材は自由です。これまで画用紙以外の素材を使い、貼り絵などで表現した作品もあり、独創性が評価された作品も多数あります。

実際に使われた素材

新聞紙、雑誌の切り抜き、
段ボール、折り紙、厚紙、
牛乳パック…など 

ビニールや金銀の紙など、
紙リサイクルできないものは
使わないでね



画用紙以外の素材を使い、独創性が評価された作品の例

紙すきをした紙、厚紙などを使用した作品



2022年度小学生部門 銅賞作品
「かみをリサイクルしよう」
小学1年生

牛乳パックから「紙すき」をして作った紙を使用した作品



2021年度 特別金賞（優秀賞）作品
「いざっ！うまれかわりにしっかりわけてね 紙リサイクル」
小学2年生

折り紙、新聞紙などを使用した作品



2020年度中学生部門 金賞作品
「古紙から美しい未来へ」
中学1年生

段ボールを使用した作品



2019年度 特別金賞（優秀賞）作品
「紙リサイクルつづけよう！」
小学4年生

良くない作例 ～作文編～



ここからは、どのようなことが評価の対象外になるのか「よくない作例」を見て理解していきましょう。

応募の前に、下記のような表現、認識の間違いがないか注目しましょう。

「ゴミを出さない」ことは「リデュース」です。リサイクルではありません。

インターネット等で調べた内容をそのまま書いている作品が見受けられます。調べた事を書くときは、要点だけ書くようにしましょう。

「捨てずに使うこと」は「リユース」になるので審査の対象外になります。

本コンテストは「紙」がテーマです。紙以外のリサイクルは対象外です。

私が思うリサイクル
今、取り込んでいるリサイクル活動は、飲み終わった〇〇ジュースのペットボトルを洗い、ラベルを剥がしてペットボトル、プラスチックに分別していることです。お母さんが料理で使った缶詰もリサイクルします。お買い物でもらったレシートもリサイクルに出します。

新聞紙は雑中の代わりに使います。紙ごみの箱に捨てて集めています。ごみ捨て場に集められた紙は、回収されて工場に運ばれていきます。工場で集められた紙は紐を解き、ベルトコンベアーで運ばれて、専用のミキサーの中で水と一緒にいれられ、ドロドロの状態になります。そのような状態のものを「パルプ」と言い、これが新たに生まれ変わる紙になります。日本では一年間に一人約200kgの紙を使っています。例えば、児童の人数に置き換えると小学四年生七人分になります。紙を作る材料は、古紙の他に木材が必要です。木材はチップといわれる細かく切った状態にし、紙の材料になるパルプにします。再生紙は、木材チップよりも古紙のほうが多く使われています。

私は、紙リサイクルをすることによって、木をたくさん切り倒して森林が伐採、破壊されなくていいなと思います。森に住む動物たちの命も守れると思いました。

リサイクルされた紙は、新聞紙は段ボールに、段ボールはティッシュペーパーに、ティッシュペーパーはトイレトペーパーに生まれ変わります。

そこで、私が考えたアイデアは、きちんとゴミを出すようにゴミ捨て場にポスターを貼ることで、周りの人に意識してほしいと思いました。

私は、これからも森を守るために、色々なものをリサイクルしていきたいと思います。また、なるべくゴミを増やさないために、できるだけ紙を使わないようにしたいと思いました。

どの紙が、どのような紙製品に生まれ変わるか正しく書きましょう。

- ・新聞紙→新聞紙や週刊誌、印刷用紙など
- ・段ボール→段ボール箱、紙箱など
- ・ティッシュペーパーはリサイクルできません。

紙は貴重な資源なので、「ごみ」「捨てる」と表現しないでください。「紙を箱に集めています。」といった表現が望ましいです。

紙リサイクルは紙をごみにすることを防ぐことであって、森林破壊を防ぐことではありません。

商品名、企業名など特定の名称は入れないようにしましょう。

レシート(感熱紙)は、リサイクルできない紙です。

良くない作例 ～ポスター編～



一見「リサイクルに関連しているから大丈夫」と思っても、「紙リサイクル」とは異なることや、間違った認識のまま「紙リサイクル」を表現することによって、対象外になってしまう作品が多く見受けられます。

下書きのときに確認し、このような表現がないか気をつけましょう。

紙を「紙ごみ」と言わないようにしましょう。きれいなレタリングができていても、キャッチフレーズが間違っていると評価の対象外になってしまいます。

これらのマークは、「紙リサイクル」に関係しないマークです。当コンテストでは使用しないでください。

使い終わった紙を捨てる表現はしないでください。上から×印を描くといった、禁止を意味する表現にしましょう。



「紙コップ、紙皿」や「レシート」はリサイクルできません。間違ったリサイクルを描くと審査の対象外になります。

「牛乳パック」は段ボールではなく、「トイレットペーパー、ティッシュペーパー」になります。生まれ変わる紙製品を正しく描きましょう。

「紙」に関することがまったく描かれていないと、どんなに力作であっても、審査の対象外となります。

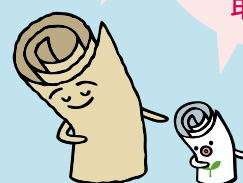
塗り残しなどがないように、なるべくいい作品づくりを心がけましょう。



「リサイクル」という大きなくくりではなく、「紙」に絞ったりサイクルについて表現しましょう。

紙リサイクルは紙をごみにすることを防ぐことであって、森林破壊を防ぐことではありません（紙を作ることとは森林破壊につながりません）。

これらをふまえて
次のページの「コツ」をおさえて
より良い作品づくりに
取り組みましょう。



作文・ポスターをより良く仕上げるために

「紙リサイクル」コンテスト」は、紙リサイクルについて正しく理解した上で、下記のチェックポイントとコツをおさえていくと、より良い作品に繋がります。

✓ チェック



「リデュース」や「リユース」、「森(木)の循環、保護」などと混同していませんか？

特定の個人名、団体名、企業名を入れていませんか？

他の作品などを流用したと思われる内容ではありませんか？

作文の書き方のコツ

書き始めを考えましょう。

興味関心を持ったキッカケを提示すると、この作文を読んでもみたいと思ってもらえる大きな要素となりえます。

注目してもらおう書き方に工夫しましょう。

説明から始めるのではなく「あれ？」という驚きを持たせたり、「おもしろそう！」と思わせる書き方をする。例えば、いきなり会話で書き始めてもいいでしょう。

話題を絞り込みましょう。

作文にする話題は、分解させずに、絞れば絞ったほど読んでもらえます。

起承転結を作りましょう。

- 起** これから書く作文の前提を説明し
- 承** ポイントとなる出来事を登場させ
- 転** それがどう展開していったかを書き
- 結** 最終的にどうなったかの結論で締める

できれば「転」は読み手を驚かせる展開にすると面白くなります。文章量の目安は、起承転結を1:4:4:1とするとバランスが良いとされています。

ドラマチックになる部分を詳しく書きましょう。

説明は必要最小限にして、その話題のメインとなるドラマの部分をより詳しく書くと、文章に厚みが出ます。

自分の思いや考え、本音を書きましょう。

作者である子どもたちが、喜怒哀楽の本音を出すことで、読む人の心をつかみます。

書き終わりの文章を工夫しましょう。

作文は出だしと締めくくりが大切です。中でも締めくくり、つまり書き終わりは印象深く書くように意識しましょう。最も悩んで時間をかけていい部分です。

ポスターの描き方のコツ

文字は大きく太くはっきり描きましょう。

キャッチフレーズは「紙リサイクル」というテーマがはっきりわかるように描きましょう。

文字の位置を工夫しましょう。

絵やイラストとの調和を考え、文字とのバランスがとれるような位置に配置できるように意識しましょう。

絵やイラストは分かりやすくしましょう。

何を意味するのかが分かりやすいような絵やイラストを描きましょう。

作文以上に誤字脱字に気をつけましょう。

キャッチフレーズは短いフレーズです。その分、誤字脱字があると、その間違いがより目立ってしまいます。

息を吐きながら描くことが、きれいに描くコツ。

少しずつ息を吐きながら筆を進めていくと、筆先がぶれません。

さまざまな良いポスターを見てみましょう。

良い作品を見ることで、新しいアイデアが浮かぶと同時に、制作の質も上がります。

裏面でも手を抜かず勝負しましょう。

応募票にポスターの意図を書ききれないときは、ポスターの裏面にも書きましょう。絵やキャッチフレーズで何を伝えたかったのか、わかりやすく説明するように書いてみましょう。



参考資料

◇審査基準

- 1) 応募規定に沿っていること。
- 2) 紙リサイクルの大切さを自分の言葉や絵画で他者に伝え、環境にやさしい社会を目指そうという意識や行動を高めていこうという内容の作品であること。
- 3) 応募作品は本人のもので、未発表のものであること（共同制作は認めない）。
- 4) 特定の個人名、団体名、企業名、商品名を入れたものではないこと。
- 5) より具体的には、以下の観点を基準とする。

（審査観点）

① 理解力

- ・紙リサイクルについて正しく理解し、テーマに沿って文章や絵で表現されているか。（「リデュース」や「リユース」、「森（木）の循環」などと混合していないか）

② 独創性

- ・発想が自由で、豊かな感性が表現された作品であるか。
- ・他の作品などを流用したと思われる内容ではないか。

③ 表現力

（作文）

- ・構成が工夫されており、表現したいことが丁寧でわかりやすく書かれているか。
- ・自分の考えや思いがよく伝わるものであるか。

（ポスター）

- ・構図が工夫されており、表現したいことが丁寧でわかりやすく描かれているか。
- ・ポスターとして、人の心（注意）を強く引きつけるメッセージ性のあるものであるか。

④ その他

- ・作品は小学校低学年（1・2・3年）、高学年（4・5・6年）、中学校の3区分に分けて審査する。（小学校1年生と6年生を同じ基準で審査しない）

当センターのホームページでは、この「応募の手引き」の他に、過去の受賞作品などの参考資料、紙リサイクルについてのコンテンツを用意しています。ぜひご覧いただき、家庭での取り組みにご活用ください。



古紙再生促進センター 紙リサイクルコンテストページ

http://www.prpc.or.jp/activities/public_relations/?id=contest#contest

紙リサイクルコンテスト

検索

スマートフォンからもご覧いただけます



応募前にチェックしましょう！

作文部門

- 手書きである。
- 1,200字以内である。（原稿用紙3枚以内）
- 原稿用紙に「タイトル」、「氏名」が書いてある。

ポスター部門

- 画用紙サイズが規定内である。（四つ切（39.5cm×54.5cm）以内）
- 立体は不可。（古紙などを使用した貼り絵、切り絵の表現は可とする。絵具、パステルなど画材は自由）
- 裏面に「タイトル」、「氏名」、ポスターの意図が書いてある。

※1人で複数の作品を応募する場合は、「作品名」で違いを明確にしてください。

応募に関する
問い合わせ先



〒105-0013 東京都港区浜松町1-23-4 浜松町昭栄ビル4F
『全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト』事務局（CISC内）
TEL.03-5777-1322 / FAX.03-3432-4044